

# 男子ハンドボール競技における世界トップレベルの

## バックコートプレーヤーのミドル・ロングシュートプレーの特徴

－身長が高い選手と低い選手とを比較して－

徳田 新之介 (筑波大学)

### 1. 目的

本研究では世界トップレベルのバックコートプレーヤーを身長の高い選手と低い選手に分類し、それぞれのミドル・ロングシュートプレーの特徴を明らかにすることを目的とした。また、形態的に優れた日本男子のバックコートプレーヤーならびに本研究者のミドル・ロングシュートの一助となる資料を得ることを目的とした。

### 2. 方法

身長が高い選手として、R. Capote、D. Duvnjak、L. Nagy の 3 選手を、低い選手として、A. Dujšebaev、L. Cindric、M. Olsen の 3 選手を選出した。標本とした試合は対象者が出場した公式戦 (全 39 試合) であった。その中で身長が高い選手のミドル・ロングシュートは 91 シーン、低い選手は 80 シーンあった。

分析項目は①シュート結果、②シュートの種類、③シュートエリア、④シュートの位置、⑤ボール保持からシュートを打つまでの歩数、⑥シュートを打つまでのドリブルの有無、⑦シュートを打つまでのフェイントの有無、⑧ディフェンダーとの接触の有無、⑨ボールをリリースする位置、⑩タイミング、⑪シュートコース (左右)、⑫シュートコース (上下) であった。

統計処理としてカイ 2 乗検定と残差分析を行った。有意水準は 5% で判定し、10% 以下の場合には有意傾向ありと判断した。

### 3. 結果と考察

#### 1) 身長が高い選手の特徴

- ①ボール保持後、1 歩の助走で、ロングシュートをノーマルのタイミングで打つことが多い。
- ②ドリブル、フェイントを入れずにシュートを打つことが多い。

- ③ディフェンダーの上からシュートを打つことが多く、ディフェンダーの斜め横、横から打つことが少ない。

#### 2) 身長が低い選手の特徴

- ①ミドルシュートをクイックのタイミングで打つことが多い。
- ②ドリブル、フェイントを入れてシュートを打つことが多い。
- ③ディフェンダーの斜め横、横からシュートを打つことが多く、ディフェンダーの上から打つことが少ない。
- ④ゴールを横に、左、中央、右に区切ったとき、中央へのシュートが多い。

### 4. 考察

世界トップレベルのバックコートプレーヤーにおいて、身長が高い選手はボールをキャッチした瞬間に、ディフェンダーの上から最も力が出るタイミングで、遠い距離からシュートを打っていると考えられる。一方、身長が低い選手はドリブルやフェイントでディフェンダーを揺さぶり、有利なポジションをとり、シュートスペースが空いた瞬間にクイックでディフェンダーのシュートブロックの腕を利用してシュートを打っていると考えられる。

### 5. 結論

形態的に恵まれない選手はボール保持からシュートまでの局面でのプレーを工夫するとともに、ディフェンダーとの駆け引きに勝ち、シュートを打てるようになることが必要である。また、ディフェンダーの反応やシュートブロックの腕を観察し、様々なシュートバリエーションを習熟させることが必要である。